

北関東

宇都宮市内で採掘される石材、大谷石に再び注目が集まり始めた。栃木県内の4企業が組み、深さ60層の巨大地下空間を生かした旅行商品を開発した。独自の観光資源を持ちながら生かし切れていなかった積年の課題に立ち向かう。4月からは大谷石を加工する若手技術者の育成講座も始まるなど、停滞傾向にあった大谷石が復権する兆しが出てきた。

採掘現場跡地にツアー

若手技術者の育成講座

宇都宮の大谷石再び脚光



地下作業場では1日20トンの大谷石が採掘される

「ここが32年ぶりに操業を始めた地下採掘場です」。マンション13階分の階段を下りて、たどり着いた地下空間。ハンマーを振り下ろし、地面か

ら石材を掘り進める作業が続く。間断なく続く作業音は巨大な空間にかき消され、異空間に迷い込んだ錯覚を覚える。

こうした採掘現場の跡地を観光ツアーとして提案する動きが始まった。市内で道の駅などを運営するファーマーズ・フォ

レスト(宇都宮市)は昨年7月、栃木県内のアウトラシア企画会社などと体験型の旅行商品を開発する新組織を設立した。まず地下水が流れる地下空間をカヌーで渡る「地底湖クルージング」の開発に取り組み。昨夏からモニターツアーを5回重ね、5月には本格的に始める計画だ。

これに先駆けて昨年12月、採掘跡地の大谷資料館を訪ねて大谷石のコー

スター製作体験ができるツアーの販売を始めた。

た旧帝国ホテルの復元に携わった彫刻家も指導陣

と見えそつだ。

大谷石は石質が柔らかく加工しやすいのが特徴で、住宅や商業施設の内装に広く使われている。10年に宇都宮市が利用を促す補助制度を設けたこともあり、市内の飲食店が採り入れる動きが広がった。ただ、民間

大谷石は石質が柔らかく加工しやすいのが特徴で、住宅や商業施設の内装に広く使われている。10年に宇都宮市が利用を促す補助制度を設けたこともあり、市内の飲食店が採り入れる動きが広がった。ただ、民間

大谷石は石質が柔らかく加工しやすいのが特徴で、住宅や商業施設の内装に広く使われている。10年に宇都宮市が利用を促す補助制度を設けたこともあり、市内の飲食店が採り入れる動きが広がった。ただ、民間

大谷石は石質が柔らかく加工しやすいのが特徴で、住宅や商業施設の内装に広く使われている。10年に宇都宮市が利用を促す補助制度を設けたこともあり、市内の飲食店が採り入れる動きが広がった。ただ、民間

観光資源、PR加速

支局 水戸 029-2221-3283  
つくば 029-8521-0345  
宇都宮 028-6222-1174  
前橋 027-2223-3115